

ニュース

# 生まれ変わる街の話題をカメラレポート

## 「石田橋」、12年度中にも上部工着手の見通し

### 1.8km、14年度末供用へ (1工区)



右写真の橋脚工事は10月現在で基礎となる杭打ちが進行中。強度を高めるため、地下に埋め込む杭は深さ40m以上となる



1.8km区間の東の起点、須屋交差点際は盛土や地盤改良工事などが進む



### 国道3号熊本北バイパス

須屋側から見る石田橋の橋脚。手前で最後の橋脚工事が進んでいる。最高部は地上高26m

国道3号の渋滞を生む通過車両を分散するルートの早期構築が待たれている。その一端を担う熊本北バイパスは、国道387号(通称飛田バイパス)と交差する須屋交差点(合志市須屋)から国道3号と結節する熊本市北区四方寄町まで、残る1.8km区間の工事が進んでいる。14年度末の供用を予定しており、現在、工事進捗率は約95%、用地買収率は約99%。

熊本北部浄化センター南側、坪井川をまたぐ延長383mの「石田橋」(仮称)は計5本の橋脚のうち、最後となる橋脚(高さ26m)の基礎工事が進行中。来年3月に同橋の下部工事はメドがつく予定で、上部工事は来年1月末以降の着手を見込んでいる。現在、国道387号が同バイパスと国道3号のアクセス道路となり交通量が3割増加している状況で、1.8km区間の整備で両国道の混雑緩和と「須屋」「山室」両交差点の渋滞緩和が期待されている。12年度予算は12億3千万円。

### 人吉旅館



玄関で出迎える人吉旅館の堀尾里美女将とスタッフ。松の木のカウンターや天井の太い梁(はり)が目玉

### 芳野旅館



芳野旅館の大広間。茶室を使った壁のほか、舟板や水車などの古材を使用しているのが特徴

## 国の登録有形文化財に同時登録へ

### 創建時の姿、観光資源に 県内旅館としては八代・金波楼に続く快挙



▲人吉旅館の堀尾女将(左)と芳野旅館の田口女将(右)。両旅館は場所も近く、同じ大工が創建に関わるなど初代から親交があり、同時登録の原動力になった



▲著名作家がよく宿泊するといふ芳野旅館の客室。この部屋を指定するプランも多いという



▲国宝・青井阿蘇神社の向かい側に立地する人吉旅館。球磨川沿いに客室を配している



▲芳野旅館の従業員宿泊棟。電灯を覆うガラス細工も当時のものをそのまま使っている



▲人吉旅館の中庭に面した長廊下。手作りガラスの木枠の窓が創建当時をしのばせる

## ハトの被害にお困りの方へ



### 鳥害対策のビルメイトにお任せください。

- ★飛来防止忌避剤
- ★剣山型着地防止プロテクター
- ★防除ネット
- ★鳥類用電気ショックシステム

屋根やマンションのバルコニー(室外機置場・バルコニー)をはじめ、屋上や外壁などハト被害が発生するあらゆる場所の施工をお客様の方針やご予算を踏まえながらご提案します。

総合鳥害対策のコンサルタント企業

### 有限会社 **ビルメイト**

〒861-8001 熊本市北区武蔵ヶ丘9-2-58  
TEL.096-337-6757 FAX.096-337-6774

人吉市上青井町の人吉旅館(堀尾謙次社長)と芳野旅館(田口妙子社長)は近く、国の登録有形文化財に登録される。

国の文化審議会が9月に文部科学省に答申した。登録されれば、県内の旅館としては金波楼(八代市日奈久上西町)に続いての登録で、同町内の2旅館が同時にというのは異例だ。建物は人吉旅館が玄関棟(建造Ⅱ昭和8年)、東棟(同5年頃)、中央棟(同8年)、西棟(同28年)の4棟で、芳野旅館が本館(昭和6年)、別広間棟(大正2年)、居間棟(明治21年)、従業員棟(大正前期)の4棟。いずれも建造当時の姿を残す木造建築で、08年に国宝に指定された青井阿蘇神社にほど近い。創業当時から親交があり、同じ大工が建造に関わっていたという。文化財登録申請も足並みを揃え、よりインパクトの強い同時登録を目指した。